

令和4年度グランドデザインの解説

グランドデザインとは、今年本校が何を目指し、どういう手段と考え方で進もうとしているのかを感覚的、構造的に理解していただくためのものです。より詳しい取り組みについては、のちに学校経営計画でお示しし、学校評価についてもその項目でいただきます。

1 全体デザイン

大子の象徴であるリンゴの木をモチーフにしました。教職員の共通価値「誠意とスピード」を土壌に、主な手段である教育課程を幹としました。取り組みの過程で4つの果実を実らせ、育てたい子ども像、ひいては教育目標の実現を目指して成長する様を表現しました。

2 スローガン

スローガンは「ひらく」とし、3つの漢字で象徴しました。主に地域社会との連携を意識し、内向きでなく外に「開き」共に学びを「啓き」豊かな人生を「拓く」学校を目指します。

3 教育目標

過年度から変わらず継続します。

4 育てたい子ども像

「しなやかな子」としました。道端の若い草木は、新芽をぐんぐん伸ばし、青々と葉を増やします。多少の風雨では簡単に折れたり倒れたりしません。風雨が去った後は、むしろ一層凛とした構えになります。これが「しなやかさ」です。強い軸と柔らかさを兼ね備えている姿です。だから立ち続け、成長し続けるのです。

私たちは、個々の子どもたちに、良さや強みを生かした「自信」と、多くの体験や他者との協働をとおした「柔らかさ」を育てます。そして、様々な事象が加速度的に変化し、先行きの予測が難しい社会において、粘り強く「立ち続け」られる子どもを育てたいと考えています。

特に「柔らかさ」「粘り強さ」は、新学習指導要領の重要なキーワードであり、昨年の本校のテーマである「チャレンジ」の重要な要素でもあります。今年は、それを一つ深化・具体化させ、自信を筆頭に添えて「しなやか」という言葉で表現しました。

5 主な手段

主な手段として、わくわく授業プロジェクトを継続しますが、新たに「循環型生涯学習」という考え方を軸とします。

これまでの学校教育は、教師が教え、子どもが学び、できたら次の学習へという直線的で上位志向な学びが主流でした。ただし、変化が激しく先が見通せない時代において、障害のある子どもが自立と社会参加を目指し、「しなやか」に育ち成長していくためには、習得した知識や技能を活用する場があり、さらにそれが何かの役に立ち、さらに新たな学習につなげることが求められます。それが「習得－活用－貢献」を循環させる学びであり、校内の学びと地域資源・人材活用とを関連付けながら実現し継続していく、循環型生涯学習です。

学びの循環を実現するためには、保護者の皆様をはじめ学校外の様々な地域資源に力や場を借りる事が必要であり、そのかわり自体が、皆さんの生涯学習につながるというWinWinの教育活動を目指します。これは年に数回の行事単発で行うものではなく、全教科等の普段の授業で意識して実践されてはじめて効果をもたらします。各教師が年間計画の各単元すべてでこの循環を実現しようとする意識とその力量を高めることが、授業力の向上であることを共通理解して日々の実践にあたります。

6 重点目標

この学習を通じて、実らせたい果実、つまり教育の成果となる重点目標は大きく4つです。それは、学びがい、働きがい、頼りがい、生きがい、この4つを実現する下位目標をそれぞれ3つずつ、計12項目で整理しました。例えば学びがいであれば、子どもにとっての学び、教師にとっての学び、さらに地域にとっての学びなど、各視点を網羅した目標としました。この目標は、学校経営計画において各学部、学年、校務分掌等に反映し、皆様からの評価をいただきます。

本校は地域あつての学校です。本校教育の要は、保護者をはじめ地元地域や関係諸機関等、子どもを真ん中にぐると手と手を携える様々な皆様です。大子で生まれ育ち、学び、進学の中で一度外から地元を見つめ直す機会を持ち、そして将来はさまざまな貢献ができる人材として地元へ恩返しができるようになってほしいと願います。是非とも多くの方々のご理解とご協力、お力添えをお願いいたします。